

県議会報いぶき号外④

発行日：2006.10.15
発行人：門脇光浩
事務所：仙北市西木町上荒井
字新屋 10-1
電話：0187-52-5188

刈り入れも一段落し、いよいよ秋の深まりを感じる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さてさて毎度のことで恐縮ですが、今回も県議会報いぶき号外をお届けします。初めてお届けする方は余り期待しないでお付き合いください。いぶき号外は「言いたい放題の雑記帳」です。読み終えたらポイントくず箱にでも捨てていただいで結構です。

その1「お酒が呑めない県議の会」で心配したこと

噂に聞いていた「お酒が呑めない県議の会」に始めてご案内をいただき、興味津々で参加しました。会場は秋田市内某レストラン。集まったのは自民・社民・みらい21・緑風21会派の方々と自分の7人。顔ぶれを見ると、全く呑めない議員もいますが、「お酒よりもご馳走が食べたい（花より団子）」派の集まりと言った感じ。自分もその口です。各会派が集まっての県議会の酒席は、職務上の話題に及んで議論を戦わせたりします。でも美味しいモノを食べていると、そんな雰囲気にはならなくて、とても居心地の良い会でした。あっ、多少の戦いはありました。パエリア（魚介類の炊き込みご飯？）の取り合いです。大皿に一皿しか出てこなくて、早い者勝ちみたいな感じになったのです。次の日は議会最終日です。「食べ物の恨みは何か」でパエリア戦争が起きたら大変と、本気で気をもみました。



その2「こども総合支援エリア」議論は続く

9月議会は、こども総合支援エリアを認めるか否かに焦点が絞られた議会だったと思います。自分が最も心に残った場面は、総括質疑（知事など県の最高幹部に対し一問一答形式で行う論戦）の中の出来事。社民党の石田議員が根岸教育長に「エリアはコロニーだ。せつかくこれまで地域との関係を築いてきた養護学校、盲学校、ろう学校を、なぜ山の上にまとめなければいけないのか。逆戻りの政策だ。つまり合理化なんだろう」と詰め寄り、執行部の答弁を待たずに退席。障害者との付き合いが深く、いつもニコニコしている石田議員からは想像できない厳しい口調で、胸に迫る迫力でした。終了後、「熱い議論でしたね」とかけると、「どんなエリアになるのか、中身の検討はこれからだよ」と話していました。

その3 「安藤忠雄さんのお話」

建築家の安藤忠雄さんの講演を山形で聞きました（北前船コリドール構想の特別講演）。とても良いお話でした。その中から印象的な言葉をほんの少しご紹介します。「無我夢中で何かに没頭しているときには愚痴は出ない」「少子化対策も大事だが、親子関係を考え直すことが更に重要」「好奇心が人間を成長させる」「熟年離婚の原因は妻と夫の文化落差（妻の方が数段文化的）」「自分たちの夢は自分たちで叶える」「自分たちの人生の後半は子どもたちが支えてくれる。その子どもたちの創造性を大事にしよう」などなど。元気が湧くキーワードをいただいた会でした。

その4 「こまち専用炊飯ジャーを作ろう」



最近の炊飯ジャーは、全てコンピュータ制御されています。一番ご飯が美味しく炊ける方法が、コンピュータにプログラムされている訳です。それでそのプログラムは、どの種類の米を炊くデータを基礎としているかと言えば、多分「こしひ

▲目指せ「こまち炊飯ジャー」かり」だと予想されます。「あきたこまち」ではありません。お米は種類によって水の量も炊き時間も違います。本当に美味しい「あきたこまち」を炊き上げるには、それなりのプログラムが必要なのです。この「こまちモードスイッチ」の付いた炊飯ジャー、あるいはこまち専用の炊飯ジャーがあれば、「あきたこまち」はもっと売れるし、値段も期待できます。このアイデアを9月議会の一般質問に例として盛り込みました。県の答弁はともかく、どなたか真剣に取り組んでみる気持ちはないでしょうか。

その5 「柳葉さんとイッパイで教えてもらったこと」

角館の祭典中、俳優の柳葉敏郎さんとイッパイご一緒させていただきました。場所は町内の友人宅です。あるコンテストに二人で出場した高校時代と比べ、彼はさらに魅力的で、気配りの人間になっていました。窓越しに柳葉さんを見つけた女子高生に声をかけ、一緒に写真を撮ったりサインをしたり…。その彼が「後援会でゴルフコンペどがやらにゃが」と聞くので「やらにゃ、オラゴルフできにゃもの」と答えたら「応援してける人のためにやらにゃばだめだ」と諭されました。ますます彼が好きになりました。

会話部分の共通語訳：「後援会でゴルフコンペなど開催してる？」「いやあ自分はゴルフができないから」「君ができる・できないじゃない。応援してくれる人たちへの感謝、楽しんでいただく気持ちが大事なんだよ」